

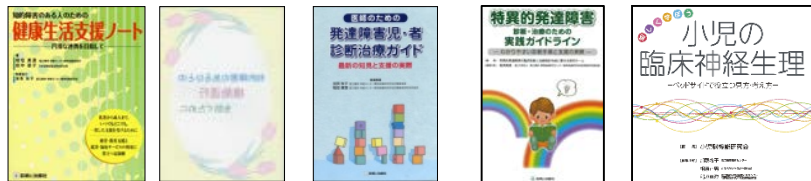
知的発達障害、注意欠如・多動性障害(ADHD)、自閉症スペクトラム(ASD)、学習障害(LD)などの発達障害の多面的診断法の確立と治療・リハビリテーション法の開発を行っています

知的障害の診断・治療介入法開発

- 発達障害児を持つ保護者の養育レジリエンス向上策の提言
- 医師と発達障害コーディネーターなどの他職種間連携の提言
- 発達障害者における機能退行予防策の普及

発達障害の診断・治療の体系化

- ADHD薬物療法の有効性客観評価
- ASDのコミュニケーション障害の機能的評価
- 特異的発達障害の診断治療ガイドラインの策定

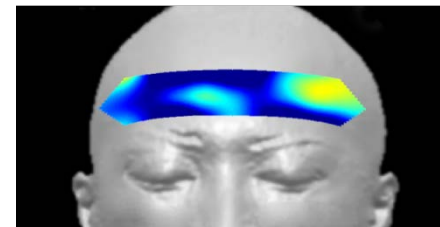
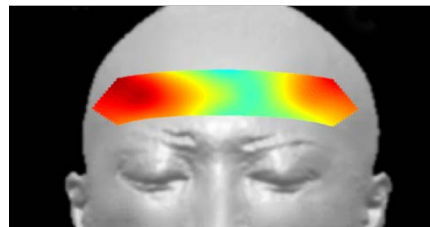


例えば

ADHDの注意機能・実行機能の障害が多面的方法によって明らかに

健常児

ADHD児



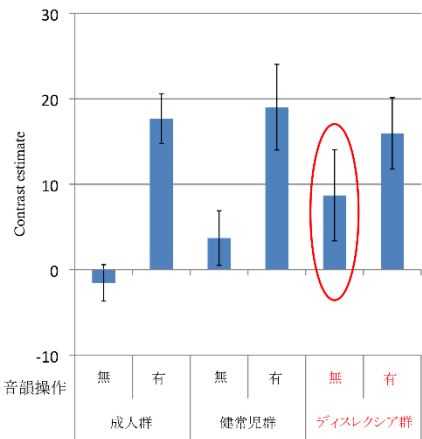
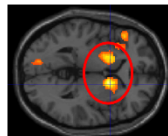
空間性WM課題

医師・国民向けの発達障害に関する情報発信

- 発達障害支援医学研修の実施(医師向け 7月と1月)
- 発達障害に関する情報の普及啓発(国民向け)

fMRI研究により日本人読み書き障害児の特徴がはじめて明らかに

図1. 大脳基底核

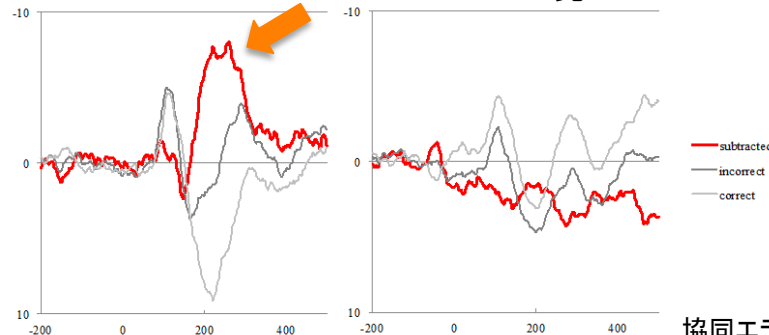


音韻合成課題

ASDの脳波研究により認知機能の特徴を見いだすことが可能に

健常児

ASD児



協同エラー課題